

うちの子がいじめに!? 保護者に求められる行動とは

● 齋藤正志教育事務所代表 齋藤正志

重要な三つのポイント

いまだ記憶に新しい、二〇一一年に滋賀県大津市で発生した中学二年生のいじめ自殺事件。これを契機に「いじめ防止対策推進法」が公布・施行され、いじめへの対応や防止について学校・行政の責務が明確に規定された。もし自分の子どもがいじめに

遭っているとわかったら、どのようにに対応するべきか――。

① いじめられている子どもの恐怖・不安を取り除く。② いじめの事実を告白してくれた場合、その勇気を評価する。③ 管理職の先生や担任の先生、スクールカウンセラー、養護教諭などと打ち合わせて適切に対応する。これら三点に基づく行動が保護者には不可欠です

こう話すのは、教育・心理カウンセラーとして活躍する齋藤正志教育事務所代表の齋藤正志氏。埼玉県内の小学校で二十五年間教員を務めたキャリアを生かし、いじめや不登校などの問題解決に取り組む教育のプロだ。

齋藤氏の強みは、欧米の心理

学に基づいた具体的な解決策を、自らの成功体験を交えながら伝えられること。著書『子育てがみるみる楽しくなる魔法の「ほめポイント」』（セルバ出版）では、「ほめポイント」というメソッドで学級崩壊をも解決に導いた実例を紹介。全国の悩める現任教員から驚きの声が上がった。

「サイコドラマ」でいじめ撲滅

では、もし自分の子どもがいじめの側だとわかったら、どのようにに対応するべきか――。

「いじめ加害者の子どもは『自尊心感情』が低い傾向がある。どこかで自分に自信を持ってないため、他者の価値を下げることによって自分の地位を相対的に高めようとし

ます。『ほめポイント』などでその子の自尊心感情を高めるサポートをすれば、いじめ予防に大きな効果が表れます」（齋藤氏）

齋藤氏は教員時代、いじめ撲滅に向けてクラスで「サイコドラマ（心理劇）」を実施した経験も持つ。これは、子ども達にいじめる役・いじめられる役を交互に演じさせ、いじめのロールプレイングを通じてその凄惨さを学ばせる心理学的な手法だ。

「全校集会でいくら管理職の先生が命の大切さを説いても、いじめを無くすことは難しいでしょう。身をもって辛さを体験することはいじめへの理解が深まり、演じ終わった後、いじめに加担しなくなるのです」（齋藤氏）

真のいじめ撲滅を実現する、重要なきっかけになりそうだ。



さいとうまさし 1958年生まれ。文教大学教育学部卒。小学校教員を25年間務めた後、現職

住所 埼玉県八潮市緑町二二一九一四

TEL 〇四八―九四七―五八三七

http://84021.biz